

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑式番館 (ユニット名 1階)
所在地	福岡県久留米市江戸屋敷1丁目11番1号
自己評価作成日	令和元年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和1年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、久留米市内でも高齢化、特に高齢者単独世帯が多い地域に平成28年11月に開設し、地域の中の認知症を患われてしまった方々の住む「家」として事業を行っている。ご利用者様が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らしていけるように支援しており、日頃の散歩・地域の夏祭りに参加している。ご利用者様の認知症の状況・身体の様子は其々でも、互いが互いを必要とし同じ「いえ」に住む疑似家族として生活を支援しており、数名のドクター及び訪問看護ステーションとの連携により、ターミナル支援・お看取り支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街に立地しており、高齢者の単独世帯の多い地域で、事業所の代表者が自治会委員として地域に貢献している。近隣に系列のグループホームがあり、敬老会など合同開催や、定期的にイベントを開催し、家族や主治医も参加する機会を設けている。日々の記録は、職員の事務負担軽減ができるようにアイパット導入をし、利用者との対話や支援にゆとりをもって接し、利用者とのつながりを大切にしている。事業所内は利用者の目線に合わせた設備で、建設時より職員の意見が取り入れられている。事業所の介護理念にある「スタッフ一同協力しあって、ご家族や地域と交流の中にも安心と安らぎのあるホームを目指します」を掲げており、地域住民とのふれあいを通して地域に根差した地域高齢者の在宅を支える拠点となっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の介護理念は、法人の理念であり、この理念が実践できるよう努めている	介護理念「私たちは暖かい雰囲気の中で、ご利用者様の尊厳を大切にしつつ共に暮らしながら、心からのケアに努めます」を念頭に置き、代表より全体会議などで理念について説明されている。年間の目標も立てており、職員は実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、校区夏祭りへの参加等、地域との付き合いは行ってはいるものの、今後益々「地域の一員として」交流を深めていきたい	自治会に加入しており、代表者は自治委員として地域との交流を深めている。職員で地域の掃除をしたり夏祭りに参加している。事業所の敬老会には地域の子どもたちが、ボランティアでお祝いの出し物をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター開催の認知症サポーター養成講座で講師を務めるとともに、他の事業所と共に地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるのかを模索している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の運営推進会議には、市職員・包括職員は勿論、他の小規模多機能事業所・薬剤師にも入っていただき、各方面からの屈託のない意見を頂戴しサービスの向上に努めている	2ヶ月に1回運営推進会議を市職員、地域包括支援センター、薬剤師、他事業所、利用者、利用者家族の参加で開催している。行事や研修報告、ヒヤリハット報告を行い意見をもらっている。又、薬剤師より、薬に関する知識や指導を受けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米介護福祉サービス事業者協議会の理事長を仰せつかっており、グループホームに限らず、久留米市内の事業所の実情、行政としての指導等、協力関係を築けている	事業所の代表者が久留米市介護福祉サービス事業者協議会の理事をしており、行政とは常に日頃から細かなことも相談し協力関係を持つように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関、フロアの鍵は施錠しておらず夜間帯のみ施錠している。フロア入り口にはセンサーを設置しフロアからでられるご利用者を引き止めず一緒に同行している	内部研修を行い、職員は研修報告書を提出し、どのようなことが身体拘束になるのか学び理解している。玄関は18時から9時で防犯のために施錠している。利用者が一人で外出しようときは行動をとめることなく声掛けしたり、一緒に歩いたりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを各フロアに置きいつでも見れるようにしている。虐待に関する研修を苑内にて行い、外部研修の参加により、虐待に対する知識をスタッフが持てるようにしている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修を行い、学ぶ機会を作っている	外部研修に参加し、苑内での研修も行っており、職員は制度の必要性について理解している。事業所に成年後見制度を利用している方もいるため、事例を通して制度について学習する機会にもなっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に見学、相談を重ね、納得していただいたうえで入居して頂くようにしている。契約後、サービス開始後もご家族との交流を持ち、相談がしやすいようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声をかけ、年に2回家族会を開き、日頃の様子をお伝えしたり、ケアプランの見直し時にはご家族の意向を聞き、反映している	5月と10月に開催しているイベント時に家族会を開催している。ケアプランに対しての意見や家族の要望を聞き取り、利用者、家族の満足のいく支援に努めている。意見箱は玄関に置いていたが、要望が入ることはなく、訪家族は問時に職員に尋ねたり、職員からは利用者の様子を報告したりしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回運営会議を開き、各フロアのミーティングで出た意見を管理者より代表者などに伝え反映できるところはしている	事業所の建設時、系列の職員のアドバイスで、利用者が使いやすいようにトイレの便器の位置、浴室の手すり設置などは、職員の意見を反映させている。家族、知人などの訪問時に居室で過ごしやすく、飲み物を提供する椅子とテーブルを職員で工夫したものを準備した事例がある。会議等でも職員は代表者や管理者に要望などを言いやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては性別・年齢を理由に採否を決定することはない。しかし、高齢者・認知症・介護に対する考え方によっては、採否を決定している	採用には一切制限は行っておらず、明るく笑顔で話す口調や高齢者を好きな方を重視している。個々の事情や要望に合わせて働きやすい環境づくりに努め、職員の希望を取り入れた勤務体制をとっている。趣味や特技を活かして働けるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	苑内研修や外部研修を受け、研修後は報告書を提出し、他のスタッフへ報告している	利用者との会話の中でも馴れ合いにならないように、介護理念にある「利用者の尊厳を大切に」を念頭におき、職員は利用者を家族のように大切に思いながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会が行う研修及び法人内研修には多くの職員が参加し日々トレーニングを行い、職員それぞれが自己の向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会・ボーリング大会及びその他の研修会、運営推進会議・包括との地域ケア会議などを通じ、地域の他の事業所との交流に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や困っている事、不安な事を良く聞きとり、信頼関係を築くように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望をお聞きし関係づくりに努めている。入居後もご家族の面会時などに様子をお伝えしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や状態を把握し、何が出来るか、出来る限り対応できるよう心掛けている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができる事はお願いし、暮らしを共にしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方的な立場にならない様努めている。何かあればその都度ご家族に連絡し一緒に支えられる関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑では母の日、敬老会を開催し、ご家族やご親戚の参加をお願いしている。面会の時間は定めず、来苑しやすいよう努めている	利用者の家族、友人、知人の訪問時には、利用者の居室で楽しく過ごせるようお茶等を提供しゆっくり過ごせる環境作りに配慮している。以前から馴染みの美容室には、家族の協力で外出に同行してもらっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席においては、気が合う方、合わない方の配置に十分気を付けている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用の終了後も、ご家族様と年賀状のやり取りなど関係を断ち切らないよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中や、ケアプラン作成時にご本人、ご家族様の希望をお聞きし、希望や意向の把握を行っている。月一回のミーティングにて全スタッフに周知している	利用者の日々の状態の変化を把握したり、会話を傾聴し、表情や行動から思いや意向に沿えるように支援している。担当者が利用者の情報を把握しミーティングで全職員が情報を共有してケアに活かされている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にこれまでの生活歴を記入していただき、入居後も会話をかさね把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録し、スタッフ全員把握する様につとめている。また、特変時や、薬の変更など、個別ノートに記載している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向などから現状の把握を行い、月一回のミーティングでスタッフ間で情報を共有し介護計画に生かしている	利用者には担当がついており、日々の情報はタブレットに入力をしている。介護計画は定期的に利用者、家族の意向を伺い、主治医には往診時に意見を頂いてプランに反映している。また状態の変化があれば職員間で話し合いを持ち、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況に応じて日々の様子を詳しく記録し、主治医からの報告も記録し、情報を共有し、日々の変化を見逃さないようにし、計画の見直しに生かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望で訪問マッサージを取り入れたり、主治医の指示で訪問看護を利用したりと柔軟な支援に取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れは積極的に行い、地域の夏祭りにも参加させていただき地域資源との交流を心掛けている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医をお聞きし、ご家族の希望に応じ対応している。場合によっては主治医の変更のご相談も受けている	利用者が希望する主治医を継続して利用できる体制をとり、希望があれば主治医の紹介を行い現在5名の医師と、薬局・訪問歯科との連携をとり、利用者の健康管理を行っている。利用者の以前からのかかりつけ医には家族が受診の送迎し、利用者の身体的情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での変化や、ご利用者の訴えをよく把握し、かかりつけ医との連携を持ち、適切な医療が受けられるよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には職員も面会に行き、状況の把握に努めている。病院と情報を共有し退院がスムーズにできるように支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族への説明、希望を聞き、グループホームでの終末期で出来る事、出来ない事を説明している。場合によっては主治医の指示にて訪問看護を利用し連携している	開所当初から看取りの支援を続け、主治医の指示のもと、事業所のチーム体制を整え家族が泊まれる体制もできている。看取りをした家族の訪問もあり、事業所の看取りに対する家族への精神面の支援もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアにマニュアルを置き、スタッフが何時でも確認できるようにしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間想定を含む防災避難訓練を行っている。また、地域の方にも参加して頂けるように声掛けを行っている	年2回の避難訓練を消防署の立ち合いのもと行っている。近隣の方へ挨拶や声掛けも継続している。災害時のマニュアルやスプリンクラーの設置、台所には消火器も設置され、備蓄品も準備ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室で着替える際や、パット交換時、トイレの際には扉を閉め、声掛けに気を付けてプライバシーの配慮を行っている	日々の暮らしの中で、更衣や排せつ時の声掛けは、声の大きさや言葉を選んだりして誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。事業所からの定期的な報告は、プライバシー保護のため家族のみにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者はサポートする身であり、ご利用者様が自己決定できるように支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、ご利用者様のペースで一日を過ごしていただけるように支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に声掛けをし一緒に服を選び、整容をしている。女性の希望される方にはマニキュアを塗ったりしておしゃれしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食べられる力や好みによって調理の仕方を変えている。お盆拭きなど声かけししていただいている	食事は専門の調理師や外部事業所の弁当・外食など楽しみを持てる食事を提供している。事業所の菜園で育てた食材をメニューに取り入れて旬の物を提供している。職員は、利用者に野菜の皮むきやおやつ作りなどできることを継続していただけるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられた量、水分量を記録し、日々、一人ひとりに合わせた食事量や水分量を摂取して頂いている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行っている。ご自分で出来ない方はスポンジブラシなどを使い支援している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレの声掛けや誘導を行っている。失禁を減らしオムツの使用量が減らせるように支援している	トイレの手すりは利用者に分かりやすい色で、便座の設置も座りやすいように工夫している。トイレで排泄することを大切に支援している。個々人に応じた定期的な声掛けでトイレ誘導を行い、おむつの使用も減っている。ブライドを傷つけないように対応し、排泄チェック表にて管理している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1500CCを目安とした水分摂取を促している。(例外を除く)排便の有無をチェックシートにて確認し、主治医の指示のもと、その方に合った下剤の調整をしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員配置の問題から一人ひとりの希望、タイミングに合わせての入浴は出来ていないが一人ひとりの特性に合った入浴を行うようにしている	利用者の身体面に合わせた支援を心掛け、介護者2名体制の入浴対応もしている。入浴を拒まれる場合には、声掛けや時間をずらして対応している。終末期も入浴を支援する体制をとり、身体の清潔保持と精神面の心地よさを提供している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせて又は希望時は居室にて休んで頂いている。居室は安心してできるような環境となるように、ご家族にも協力して頂いている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬時に、薬局から薬の説明を受けたり個別ノートに書いて頂いて、薬の変更などがあった場合にはその都度個別ノートにて確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持っている力を活かし、役割を持っていただいたり、趣味で気分転換が出来るように支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿うことは、人員の関係上、難しい事が多いが、ご家族やご親戚の方と一緒にでかけられるよう支援している	介護度の重度化に伴い外出は困難になっている中でも、事業所周辺の散歩や外食のランチ、季節ごとの花見などに行っている。家族支援の外出や定期的な美容院の外出をする利用者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、現在はトラブル防止のために事務所で預かりしている。ご本人の希望があればご家族に確認し使えるよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などのやり取りをされておられ、希望があれば電話をかけるお手伝いをしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で清潔な空間づくりに努めている。汚れやごみはこまめに取り除き、庭には旬の野菜を植えて季節感を味わって頂いている。フロアには季節に合わせた貼り絵を入居者様と共に作成し、貼っている	共有の空間は、明るく温度調整もしており、乾燥を防ぐため床暖房設備となっている。季節の花や、利用者手作りの季節の貼り絵も飾ったりして季節感を出している。	浴室の脱衣場は、掃除や洗濯の際に使用する洗剤、トイレにも薬剤などが見える位置にあるため、収納場所については検討する機会を持つことを期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の心地よさを確保し落ち着いて過ごされるようリビングにはソファを置きテーブル配置も考慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様が自宅での見慣れたものを持ってきていただき、安心できる空間づくりに努めている	リビング、ダイニングを中心に居室が見渡せるようになっている。居室は、事業所で用意したベッドや整理ダンスを設置しており、使い慣れた家具や仏壇を持ち込んだり、写真、レクリエーションで作成したものを飾ったりして、本人が居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	公共の場所や居室に分かりやすく大きく表示したり、大きな文字の時計を置いたり、安全かつ自由な空間を作っている		